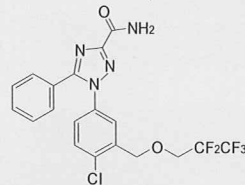


農林水産省登録：第22375号

商品名：コンクリート顆粒水和剤  
 種類別：フルポキサム水和剤  
 有効成分：フルポキサム・・・50.0%  
 構造式：



人畜毒性：普通物

魚毒性：B類(原体)

包装：500g×10袋

性状：淡灰色水和性細粒

■ 適用作物・雑草と使用方法 ■

\*印は本剤およびフルポキサムを含む農薬の総使用回数

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量 (/10a)		総使用回数*		使用方法
			薬量(g)	散布水量(l)	本剤	フルポキサム	
日本芝 西洋芝 (パーミューダグラス)	一年生雑草	雑草発生前	150～300	200～300	2回以内	2回以内	散布

(2011年7月現在の登録内容)

コンクリート顆粒水和剤を正しくお使いいただくために。

- 乳剤との混用は、凝固・沈殿をおこし、タンク車などの目詰まりをおこす恐れがありますので避けてください。
- 完成前の芝生(張り芝、撒き芝直後など)への散布は避けてください。
- 周辺樹木へのドリフトは、春先の新梢展開期には影響がみられますので注意してください。

⚠ 効果・薬害などの注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し使いきってください。
- 使用に当たっては、使用量・使用時期・使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

⚠ 安全使用上の注意

- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 漏出時は保護具を着用し、掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。

魚毒性：この登録に係る使用方法では問題はありません。  
 保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

使用量に合わせ薬液を秤量し、使い切ってください。空袋は圃場などに放置せず、環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

販売元  **株式会社 ニッソーグリーン**

東京都台東区上野3-1-2(秋葉原新高第一生命ビル5F)  
 〒110-0005 Tel.03-5816-4351  
<http://www.ns-green.com/>

取扱店

製造元  **日本曹達株式会社**

本社 〒100-8165 東京都千代田区大手町2-2-1

CONCRETE

コンクリート顆粒水和剤は  
 一年生雑草への安定した効果と  
 日本芝・パーミューダグラスへの  
 高い安全性が特長。  
 新規の作用機作を持つ  
 トリアゾールカルボキシアミド系の  
 芝用土壌処理型除草剤です。



株式会社 ニッソーグリーン



## 特長

### 1 幅広い殺草スペクトラム

スズメノカタビラ、メヒシバなどの一年生イネ科雑草や各種の一年生広葉雑草に対して高い効果を示します。

### 2 長い残効性

標準薬量(0.2g/m<sup>2</sup>)において、春処理では120日以上、秋処理では180日以上の効果持続期間があります。

### 3 安定した除草効果

土壌吸着性が高いため、安定した処理層を形成します。

### 4 従来の芝用土壌処理剤とは異なる作用機作

既存の薬剤(ジネトリアニン系、ピリジン系、カーバメート系など)とは異なる新規な作用機作を持っているため、薬剤ローテーションに有効です。

### 5 芝生への高い安全性

ターフを形成した日本芝(コウライシバ、ノシバ)・パーミュエダグラスに対して、高い安全性を有しています。

## 安全性(製剤)

### ●人畜に対する安全性

急性経口毒性(LD50)	ラット	♀: >2000mg/kg
急性経皮毒性(LD50)	ラット	♂♀: >2000mg/kg
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ	軽度の刺激性あり
皮膚感作性	モルモット	感作性なし

### ●環境に対する安全性

コイ	LC50 (96hrs.): 4.2mg/L
ミジンコ	EC50 (48hrs.): 3.2mg/L
藻類	ErC50 (24-72hrs.): >1000mg/L

## 作用機作

コンクルード顆粒水和剤の有効成分であるフルボキサムは、雑草の根端・幼芽部分裂組織に接触する事で作用します。また、細胞分裂時の細胞壁の合成を阻害(セルロース合成阻害)する事により、枯死にいたらしめます。植物体内での移行性はほとんどありません。



## 殺草スペクトラム(土壌処理効果)

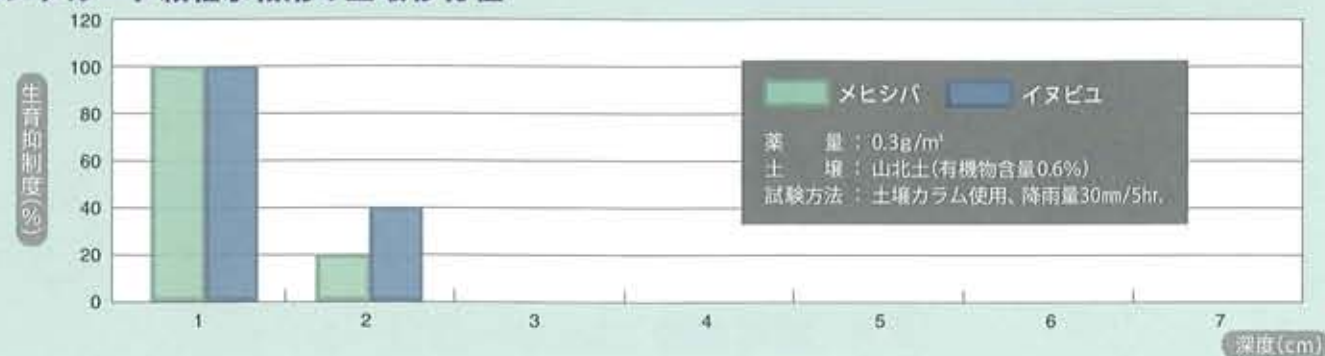
雑草		効果	雑草		効果
イネ科	メヒシバ	●	マメ科	シロツメクサ	●
	アキメヒシバ	●		コメツブツメクサ	●
	スズメノカタビラ	●		ヤハズソウ	○
	オヒシバ	●		カラスノエンドウ	●
	エノコログサ	○	ツメクサ	●	
	スズメノテッポウ	●	ナデシコ科	ハコベ	●
アブラナ科	タネツケバナ	●	オランダミミナグサ	●	
	シソ科	ヒメオドリコソウ	●	オオイヌノフグリ	●
キク科	セイヨウタンポポ	●	タチヌノフグリ	●	
	ノゲシ	●	スベリヒユ科	スベリヒユ	●
	ウラジロチチコグサ	●	オオバコ科	オオバコ	●
	ヒメムカシヨモギ	●	タデ科	オオイヌタデ	●
			トウダイグサ科	コニシキソウ	●
			カヤツリグサ科	一年生カヤツリグサ	●

コンクルード顆粒水和剤0.2g/m<sup>2</sup>

効果: ●極大(100%), ○極大(99~95%), ○大(94~90%), □中(89~80%), △小(79~60%), ×無(59%~)

2006~2008年 日本曹達(株)小田原研究所

## コンクルード顆粒水和剤の土壌移行性



## 散布時期と効果持続期間

コンクルード顆粒水和剤は、標準薬量(0.2g/m<sup>2</sup>)で一年生雑草を春処理では120日以上、秋処理では180日以上長い期間にわたって抑えます。ただし、既に発生した雑草が認められる場合には、コンクルード顆粒水和剤は効果がありませんので、茎葉処理剤との組合せをおすすめします。



## 公式委託試験成績(抜粋)

### ■春処理

試験機関: 関西グリーン研究所(H15春夏作)  
芝品種名: ノシバ  
処理日: H15.4/3  
調査日: H15.8/1

試験機関: 浜松シーサイドゴルフクラブ(H16春夏作)  
芝品種名: コウライシバ  
処理日: H16.4/22  
調査日: H16.8/20

### ■秋処理

試験機関: 東日本グリーン研究所(H14秋冬作)  
芝品種名: コウライシバ  
処理日: H14.10/10  
調査日: H15.3/11

試験機関: 新中國グリーン研究所(H21秋冬作)  
芝品種名: パーミュエダグラス  
処理日: H21.9/16  
調査日: H22.2/17

使用量(g/m <sup>2</sup> )	0.15	0.2	0.3	対照剤	使用量(g/m <sup>2</sup> )	0.15	0.2	0.3	対照剤	使用量(g/m <sup>2</sup> )	0.15	0.2	0.3	対照剤	使用量(g/m <sup>2</sup> )	0.15	0.2	0.3	対照剤
アキメヒシバ	○	●	●	●	メヒシバ	○	●	●	●	スズメノカタビラ	●	●	●	●	スズメノカタビラ	○	●	●	○
ヤハズソウ	○	○	○	○	アキメヒシバ	●	●	●	●	オオアレチノギク	○	●	●	△	オランダミミナグサ	●	●	●	●
コニシキソウ	●	●	●	●	コニシキソウ	●	●	●	●	オオイヌノフグリ	●	●	●	●	タネツケバナ	●	●	●	●
					ヤハズソウ	●	●	●	●										

効果: ●極大(100%), ○極大(99~95%), ○大(94~90%), □中(89~80%), △小(79~60%), ×無(59%~)

## 芝生に対する安全性試験

### コウライシバ・ノシバ

#### (春処理)

薬量(g/m <sup>2</sup> )	コウライシバ		ノシバ	
	生育抑制	クロロシス	生育抑制	クロロシス
0.2	-	-	-	-
0.4	-	-	-	-
0.6	-	-	-	-

生育抑制: - (無) ~ +++ (完全枯死) クロロシス: - (無), ± (軽い黄化), + (黄化), ++ (黄化~壊死), +++ (ネクロシス)

#### (秋処理)

薬量(g/m <sup>2</sup> )	コウライシバ			ノシバ		
	生育抑制	クロロシス	翌春の緑化	生育抑制	クロロシス	翌春の緑化
0.2	-	-	問題なし	-	-	問題なし
0.4	-	-	問題なし	-	-	問題なし
0.6	-	-	問題なし	-	±	問題なし

2004年~2005年 日本曹達(株)小田原研究所

### パーミュエダグラス

#### (春処理)

薬量(g/m <sup>2</sup> )	ティフトン328	ティフトン419
	0.3	-
0.6	-	-

生育抑制: - (無) ~ +++ (完全枯死) 2008年 日本曹達(株)小田原研究所

#### (秋処理)

薬量(g/m <sup>2</sup> )	ティフトン419	
	生育抑制	翌春の緑化
0.3	-	問題なし
0.6	-	問題なし

生育抑制: - (無) ~ +++ (完全枯死) 2009年 浜松シーサイド芝草研究所

## 周辺樹木への影響

周辺樹木へのドリフトは春先の新梢展開期には影響がみられますので注意してください。

### 春処理(薬量0.3g/m<sup>2</sup> 水量200ml/m<sup>2</sup>)

薬害なし: サツキ、ツツジ、コノデガシワ、ドウダンツツジ、ヤナギ、マツ、ゴールドクレスト、ヒイラギ、カエデ、ツゲ、マキ、マサキ  
薬害あり: (新葉のアントシアニン症状) カナメモチ、サンゴジュ、モッコク (新葉の褐変壊死) ヤマモモ、サルズベリ、サザンカ、サクラ

### 秋処理(薬量0.6g/m<sup>2</sup> 水量200ml/m<sup>2</sup>)

薬害なし: サツキ、ツツジ、カナメモチ、サンゴジュ、コノデガシワ

2005~2006年 日本曹達(株)小田原研究所